

碧水園能

能野の

守もり

居留

佐々木多門

和泉流

狂言

寝ね音曲

おんぎよく

深田博治

喜多流公演

平成30年2月11日(日)開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

自石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂
主催 碧水園能に親しむ会実行委員会
後援 自石市、自石市教育委員会

(公)自石市文化体育振興財団
自石商工会議所、自石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇三四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町二丁目二番二二号
入場料

正面補助席、脇正面指定席	5,500円
正面席	6,000円
脇正面補助席	5,000円
自由席	4,500円
学生席	3,000円
(中学生以下無料 先着10名)	

チケット取扱所

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※平成29年12月8日(金) 午前8時30分発売開始

電話受付 午前9時開始

〔(野守)写真 佐々木多門所演〕

碧水園能 喜多流公演 番組

解説 友枝真也

開演 一・三〇

仕舞

養老 佐藤 陽

地謡

羽衣 塩津 圭介

友枝雄太郎
内田 成信
友枝 雄人
友枝 真也

和泉流

狂言

寝音曲 太郎冠者 深田 博治 主人 破石 晋照

休憩 十五分

二・〇〇

二・二〇

二・三五

能野の守

間狂言・春日の里人 深田 博治

居留 ワキ・山伏 安田 登
大鼓 大倉慶乃助 太鼓 桜井 均
小鼓 森 貴史 笛 成田 寛人

後見 塩津 哲生
粟谷 浩之

地謡
狩野 祐一 友枝 真也
佐藤 陽 友枝 雄人
塩津 圭介 狩野 了一
谷 友矩 内田 成信

附祝言

終演予定 三・四五

狂言 寝音曲 (ねおんぎょく)

主人に謡を所望された太郎冠者は、いつも謡わされてはかなわないので、酒を飲まなければ声が出ないとか、妻の膝枕でないと謡えないなどと言ってもつたいをつける。どうしても謡が聞きたい主人は、太郎冠者に酒を飲ませ、自分の膝に寝かせて謡わせる。上手に謡った太郎冠者は、今度は起き上がりて謡うように命じられるが...

太郎冠者と主人のやりとりが楽しい、太郎冠者狂言の代表作です。

能 野守 居留 (のもり いどめ)

羽黒山の山伏が、葛城山へ向かう途中で大和国春日野(奈良市)に立ち寄る。そこに来合わせた春日野の番人の老人に、謂われのありそうな清水の名を尋ねてみると、「これは野守の鏡といつて自分達の姿を映す泉であるが、本当は鬼神が持っている鏡を野守の鏡というのだ。」と答える。また帝が狩をこの春日野で催された時に、見失った鷹がこの水に映って行方が知れた故事を老人は語り、やがて野の塚の中に消えてしまふ。

〈中人〉

あまりの不思議さに、さらにこの野の物語を所の者から聞いた山伏が、塚の前で心を込めて祈ると、やがて鏡を持った鬼神が出現する。東西南北、天界世界の有り様を鏡に映し出して見せ、鏡を山伏に与えると、大地を踏み破って奈落の底へと入ってゆく。この度は「居留」という喜多流のみの特殊演出で、「大地」を殊に意識させる終局となります。

深田博治

和泉流狂言方、一九六七年生。人間国宝・野村万作に師事。国立能楽堂・能楽二役第四期研修修了。能楽協会会員。三万作の会一門の若手研鑽会「狂言さん座」同人。一門の若手を引つ張るリーダー的存在でもある。「狂言やつとな会」を主宰。

一九七二年生。喜多流職分。佐々木宗生職分の長男。塩津哲生職分に師事。喜多流の伝統が続く白石の地。平成八年より碧水園の公演を勤めている。能楽協会会員。「燦ノ会」同人。

会場のご案内

白石駅 第二小学校 白石中学校 白石城

至仙台 至福島

国道113号 旧国道4号線 国道4号線

碧水園 GS 至福島

白石市古典芸能伝承の館 碧水園
〒989-0248 宮城県白石市南町2丁目1番13号
電話・FAX/0224-25-7949